

『つむぐ』



あつた あつた あつた

穴水町の仮設住宅は川島、大町、出比谷、港町、下野川、鶴島、長ヶ瀬、中尾、兜、鶴橋の16ヶ所に建てられ、入居も進んでいます。ただ、仮設住宅での生活は多くの心配事があります。先日、門前での孤立死が報道されました。今後、同じようなことが起きないよう工夫を取り組む必要があります。知らない人が集まる仮設住宅もあり、お入居周りもないといふこともあり、何かのコミュニケーションを取りにくいのかも知れません。『談話室』など、人が集まる場所を活用し、お互いに声をかけあい、心を寄せあてていきましょう！

外に出まわら！ 体を動かしまわら！ ボランティアの力も借りて、できることをさばし、それを誇ってしまわら！

変わる風景...

でも、ここから次へ

家屋の解体が少しお進んでいます。右の写真は川島・大島町付近です。4棟が解体され、町の風景は大きく変わりました。でも、ここから出発です。いろいろな思いがあると思いが乗り越えまわら！



一人で悩んだり、抱えこんだりしないで、ボク達と一緒にやってみよう。社会福祉協議会などに相談してください。



仮設住宅入居者の表札を作っている

金沢の番井一夫さん(元小学校校長)は趣味の手品で穴水町を支援し(ZVRボランティアを癒してくれました。)



あつた あつた あつた

名白屋の胡弓奏者・石田晋人さんは10年ぶりに穴水へ。

前を向いて②

震災後、厳しい現実を目の前に。でも、やはり少しでも前を向いて進む努力をし続けなければいけません。



「飲食店ごんごん」も営業を再開しています。訪ねたとき、店はとてむぎ気がありました。「食」は幸せを感じるのです。皆さん、頑張っています。



命をつなぐ

川島のやなぎマンション。毎年、ツバキが薬を作し、命をつないでいます。

能登半島地震に対するマスコミの報道は減ってきています。おれらに支援は必要です。「水」をもっと発信しなければ...

石の町は能登町鶴川を訪ねるときに見つけた看板です。鶴川の街並みも壊滅状態でした。壊れた建物の一角に手書きで「見せましょり やさしおけいはい能登を 涙ぬぐおつて 励ましおつて」と書かれた看板。心に残りました。元気を出していましょり。



5月の色、紅

今年も深紅が所を彩りました。写真は鶴橋・沖波の道本義夫さん宅のサザナミです。

6月議会

開会式は、これは山で紫いというのでは？

5月26日(水)の町議会6月定例会が始まりました。1日目の能登半島地震のあと、議員の皆さんはどんな動きをしたのでしょうか？ 支援物資の仕分け作業や災害ゴミの搬出活動に協力した議員さんはいくらですか？

6月議会ではぜひ所管の寄りのたきをいせてほしいです。一般質問は11日(水)午後1時半からです。傍聴はOK!?

5月の山仔升。この山で紫の藤の花におかわりしています。「アッ、きれい!」という声も



災害ゴミ仮置場の受け入れ：6月30日まで (土日可。9:00~12:00 13:00~15:00)